

森を歩き、環境学習

愛知県長久手町の愛・地球博記念公園 党県議団 好評の拠点施設を視察

愛知県は、自然との共生の環境学習を推進。中学生を学んだ愛知万博(2005年開催)の精神を継承して、県民一人ひとりが地球環境に配慮した行動を身に付ける環境学習を推進。中でも万博で好評を博した事業を受け継ぐ自然体験型環境学習を展開し、注目を集めている。環境行政をリードする公明党県議



インタープリターの案内で森を歩くツアーを体験する党県議団

に達した。

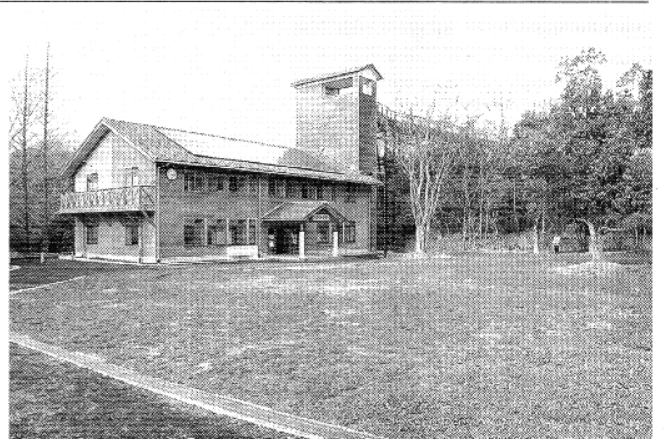
一行は同施設の2階で環境部の河根清・環境活動推進課長らから、万博を継承する環境学習について説明を受けた。それによると、プログラムの一つは、森の自然学校を引き継ぐ「インタープリターと歩くもりのツアー」。同学校は万博期間中、約50万人が参加し、隠れた人気スポットとなった。

◇

一行が訪ねた「もりの学舎」は、万博会場跡地に整備が進められている愛・地球博記念公園の一角にある。昔ながらの木造校舎をイメージした2階建ての建物で、延べ床面積は約538平方メートル。万博開催時は環境省のパビリオン(2階)や自然体感プログラム「森の自然学校」の拠点基地(1階)だった。万博が閉幕後、施設を改修し昨年3月、「もりの学舎」として新たにオープン。来館者はこの1年間で6万人

インタープリターとは森の案内人のことで、万博では全国から参加した約100人のインタープリターが森を歩きながら、自然の魅力をツアー形式で案内し好評を博した。

このうち、地元13人が昨年3月から同施設でのツアーを担当。その後新たに公募したメンバーを加え現在、20代から70代まで幅広い年齢層の男女33人が活動している。



自然に囲まれた環境学習の拠点施設「もりの学舎」

知、岐阜、三重各県の同クラブ交流会の開催も計画するなど、新年度から次世代を担う子どもたちを対象とした環境学習に重点を置く方針。

一行は、こうした説明を聞いた後、実際にインタープリターの案内で同施設周辺の森を歩くツアーを体験。陽光を浴びて土の中から芽を出す植物や、「もりの学舎」から連絡している「環境観察デッキ」に上ってコナラの木などを熱心に観察した。小島団長らはインタープリターらスタッフの活躍に期待し、「子どもたちのために頑張ってください」と述べた。

党県議団はこれまで定例会などを通じ、万博の精神を受け継ぐ環境学習を推進してきており、その拠点となる同施設の活用をさらに後押ししていくこととしている。

校の遠足や社会見学にも利用され、約3900人が参加している。もう一つのプログラムは工作教室の「あそび工房」。夫

室の「あそび工房」。夫が参加している。もう一つのプログラムは工作教室の「あそび工房」。夫

参加者は約6200人を数えている。また万博後も継続しているエコマネー(環境に配慮した行動がポイント化される環境通貨)事業も推進。同施設には同マネーの端末機を備え、ツアーと「あそび工房」への参加者に求